

2023年度3月期卒業式 式辞

本日ここに、神奈川大学から晴れて「学士」の学位を授与された皆さん、「修士」の学位を授与された皆さん、そして「博士」の学位を授与された皆さん、おめでとうございます。卒業生、そして修了者の皆さんはもちろんのこと、今日まで永きにわたり守り育て、支えてこられたご家族・ご関係の皆さまのお慶びもひとしおのことと存じます。神奈川大学の教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。

本日卒業される学部生の皆さんは、2020年度に入学されましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、4月に入学式を行うことができず、翌年の3月に入学式を行うという事態になりました。また、大学院修了の皆さんも、在学中新型コロナウイルスの影響をさまざまに受けたことと思います。大学の授業が開始されても、大学構内に足を踏み入れることが許されず、授業を担当する教員に会うことも叶わず、友人を作ろうにも、学外ですら人と会う事もままならない状況でした。大学は、早急に授業体制を整え、遠隔による授業を開始しました。当時オンラインでの授業は学生の皆さんも初めての経験だったでしょうし、私たち教員も、画面の向こうの皆さんにどのように語り掛ければ講義の内容を理解していただくことができるのか、あるいはどのようにすれば学生の皆さんとコミュニケーションをとることができるのかと、試行錯誤の連続でした。学生の皆さんも、孤独と闘いながらパソコンに向かって授業を受ける毎日で、課外活動もできぬ、とても辛い学生生活の一時期を過ごした経験を忘れることはできないと思います。

その後、2021年度からは感染防止策を講じながら、可能な限り対面での授業が再開されました。また、みなとみらいキャンパスも、この年度に開設されました。今ここにいる卒業生の皆さんは、横浜キャンパス、湘南ひらつかキャンパス、そして新設されたみなとみらいキャンパス、それぞれの所属するキャンパスに、この時はじめて足を踏み入れたのではないのでしょうか。それぞれのキャンパスに集い、そこで新しい仲間をつくり、3年間という限られた時間の中で、通常の四年間よりもずっと有意義で中身の濃い学生生活を過ごされたのではないかと思います。一方、私たち教職員も学生の皆さんが戻ってきてくれたことで活気にあふれ、本来の姿を戻しつつあるキャンパスを感じて、心から嬉しさを噛み締めました。

コロナ感染症が終息に向かいつつある昨年4月には、湘南ひらつかキャンパスが閉じられ、横浜、みなとみらいの、二つのキャンパスにおいて文系理工系を合わせて11学部が、「YOKOHAMAの神奈川大学」として、本学が4年後に迎える百周年とその未来に向けて新たなスタートを切りました。これまでの本学の歴史を踏まえながら、新たな歴史を創生していくための基礎を築き始めました。

皆さんは本日を以て本学を卒業あるいは修了して、社会に羽ばたいて行かれます。日本の現状を見つめ、そして世界の動向を注視しながら自分の進むべき道を探し歩んでいかれることと思います。

現在、国際情勢は大きく変化しています。2年前に始まった、ロシアとウクライナの不幸な戦闘は未だに終息の兆しが見えません。また、昨年始まったガザ地区におけるイスラエルとパレスチナの戦闘は凄惨を極めています。日本国内では、今、戦争は行われていませんが、東アジアを見れば、中国の海洋進出や軍事費の増大、北朝鮮の核の開発やミサイルの発射など安全保障環境が厳しく変化しています。私たちは、このような国際状況の中で自国を守り、国際社会と連携していかなければなりません。私たちが生きていくうえで基本となる日本国憲法では、悲惨な戦争を二度と繰り返さないという強い決意のもとに、戦争を永久に放棄すること、そしてそのための戦力を保持しないことが憲法第9条に明記されています。これが、日本の平和主義であり、「国際平和を誠実に希求する」という意思を全世界に訴えています。しかし、1990年代以降、国際情勢が大きく変化していく中、日本は国際平和に関する法令を変化させてきています。2015年には安全保障関連法が成立しました。その中の「国際平和支援法」では、自衛隊が海外で他国軍を支援することが新たに決められました。もう一つの「平和安全法制整備法」では、自国が武力攻撃を受けていなくても、同盟国と共に反撃する権利を認める「集団的自衛権」の限定的行使が法制化されました。この法制改革は、日本の防衛・安保体制の大きな転換だと言われています。日本は、国際的に「孤立」して存在することはできません。「集団的自衛権」も使用するかどうか、検討する場面に遭遇することもあるかもしれません。それは国会で審議されますが、皆さん一人ひとりが国民としてそれを決める権利を持っているのです。

このように、さまざまな場面で、私たちは国の平和と安全をどのようにして守ればよいのか、そして国際平和にどのように貢献していけばよいのか、考える必要があると思います。とくに若い皆さんが社会人となって日本で生きていく上で、お互いに話し合い、考えていくことが大切なことだと思います。皆さんの時代には、日本の平和主義と国際的安全保障を考えていくことがより求められてくると思います。

さて、モノを考えていくことは、ヒトつまり人間として生まれ、生きていくために必要不可欠なことです。皆さんは本学でサイエンスを学んできました。サイエンスによって得られた成果は、人類の福祉＝ウェルビーイング つまり快適に生きるためのために活かされるべきものであり、世界人類一人ひとりの存在価値や多様性を尊重するものです。科学はその探求のためにだけ行うのではなく、私たちの社会に還元し、そして社会から新たなサイエンスのテーマが引きだされていく、その繰り返しです。皆さんが本学で行ってきたサイエンスはこれで終わりではなく、環境が変わっても人類の福祉＝ウェルビーイングのために様々

なかたちで社会につながり続けていってください。

最後に、皆さんは3年にも及ぶコロナ感染症という未曾有のパンデミックに打ち勝ち、今日の日を迎えられました。そして、そのような渦中にあっても皆さんが本学で築き上げてきた人と人との繋がりや、卒業した後もかけがえのない絆となるでしょう。どうか母校である神奈川大学を誇りに思い、24万人を超える神奈川大学の卒業生の一人として、本学で身につけた知識や人脈など、さまざまな能力を活かし、社会で活躍されることを期待しています。そして、どのような時でも、母校を訪れてください。神奈川大学はいつでも皆さんを歓迎いたします。

皆さんの今後の幸せと、限りない未来を祈念しまして、式辞といたします。

2024年3月22日

神奈川大学長
小熊 誠